

(別添)

令和5年度

第3回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和5年12月25日（月）

15：00～17：00（予定）

場 所：関東森林管理局 東京事務所 会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 木材の需給動向について

(2) 国有林材の供給調整について

(3) その他

3 閉 会

令和5年度 第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

○委員

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	出欠
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一	出席
福島県森林組合連合会 特別職共販部長	遠藤 誠寿	出席
栃木県 県東森林環境事務所 所長	川上 晴代	出席
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史	出席
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 広興	出席
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子	欠席
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡	出席
栃木県森林組合連合会 代表理事専務	佐橋 正美	出席
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志	出席
株式会社堀江林業 代表取締役	堀江 賢一	欠席

○関東森林管理局

官 職	氏 名	出欠
森林整備部長	川浪 亜紀子	出席
資源活用課長	梶井 昌克	出席
東京事務所 副所長	堀江 則之	出席
企画官(木材需給対策)	飯村 善美	出席
上席技術指導官(木材供給担当)	奥村 忠充	出席
長期安定供給係長	齋藤 博	出席
素材供給係長	齋藤 悠	出席
素材供給係	神保 宏樹	出席
供給計画係長	井上 祥吾	出席

(別紙)

令和5年度 第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和5年12月25日(月) 15:00~17:00

関東森林管理局 東京事務所 会議室

2 議題

(1) 木材の需給動向について

(2) 国有林材の供給調整について

3 検討結果

製材工場の原木在庫不足を補充する形で原木の引き合いが活発化し、価格が急上昇したが、出材の増加もあり、需要者の手持ち不足感、原木価格は落ち着きつつある。

住宅需要の停滞が長引いており、木材製品の荷動きは全般的に鈍い。国産材製品については、米マツ製品の代替需要が発生しているが、一部製品にとどまっている。合板工場の生産調整は継続されている。

以上のことから、現時点では国有林材の供給調整は不要と判断されるが、地域での需要動向等の情勢を注視していく必要がある。なお、国有林においては、各地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討をお願いする。

4 主な情報、意見

- 原木需要は低下したが出材が減っているため価格は下がっていない。住宅着工の減少で製品の荷動きは低迷している。木材以外の資材高騰により住宅の坪単価が100万円を超えており一般市民は手が出ない。スギ、ヒノキをよく使う中小工務店は相当厳しい状況。また、金利差縮小による円高の原木価格への影響を危惧。
- 原木の価格は入荷量が少ないことから上昇しているが、今後、伐採時期に入り、出材が増えれば落ち着くのではないかと。合板用の原木の納入が制限されている中、宮城、岩手、新潟、山形ではスギ4m材の輸出の動きが出ている。
- 11月中旬までは製材工場側の原木不足が続き原木価格は上昇傾向であったが、現在では出材量が増え業者の手持ち不足感も薄れ値が下がっている。製材品は、丸太のコスト高で値上がりしているが、原木価格が下がってきたため、この先はわからない。住宅需要に活気がなく、回復するような要因もない。
- スギ柱取り丸太が9月に急激に不足して価格が19,000円まで上げたが、その後丸太が入荷しだして、今は16,000円で落ち着いている。製材工場では越冬用に在庫を積み増す慣習はなくなっている。製品について柱材より羽柄材の価格が高いが、米松の供給減が原因ではないか。原木も柱取りより中目、尺上のほうが値上がりしている。大手住宅メーカーが製材業に進出し始めており、既存の業界にとってはかなり脅威に感じている。
- 共販所への原木の入荷はほぼ平年並み。民有林材は徐々に増加してきている。ほぼ完売だが、昨年同期比で、原木の取扱量は約9割、販売額は約8割。原木価格は9月~11月に上昇したが

12月に入って下がり始めている。ヒノキの一時的な高騰というのは、中国木材鹿島工場の火災の影響があると考えている。住宅着工戸数の減少は懸念材料で、原木価格は下降傾向になるのではないかと。

- 秋以降の原木需要の回復を受け労働力を伐採・搬出にシフトしており、原木の出材は例年どおりになってきている。例年どおり12月頃から値が下がり始めており、状況を注視している。国の大型補正予算で花粉症解決に向けた皆伐の事業量がどのくらい予算化されるのか注視している。
- 虫害の不安がなくなり原木の荷動きが戻ってきた。新材の単価もそれなりであるが、実需が戻っておらず一過性ではないか。素材を出荷する側からは、住宅着工数の減少、住宅価格の高騰がある中で先行が不安。素材生産量を増大させる政策がとられているが、県内に大型工場がないこともあり、生産を増やしたときに出口がない。政策を見直す議論も必要ではないか。
- 原木価格に関しては、夏ごろの最低水準が底を打って上昇に転じどんどん下がるという心配はなくなったのではないかと。インフレや労賃の上昇を考えると注視は必要。住宅着工が回復しない中、国産材価格は外材に引っ張られるので為替動向が気になる。中長期的に注視が必要。並材汎用製品に関しては、規模拡大で生産コストを下げ外材の影響を受けにくいようなコスト競争力・価格競争力を付けていく必要があると考えている。
- 合板用原木の入荷は安定し、適正在庫を維持。針葉樹構造用合板は引き合いが少なく当用買いが続いている。合板価格は下げ傾向であるが、原木価格は変えずに維持している。市場環境が良くない中、非住宅案件での需要増を期待。物流の2024問題について、トラック運賃の上昇は避けられず、製品価格への転嫁が必要になりマーケットの反応が心配。
- 原木の流通量は11月半ばより増え、供給不足感が解消し弱含みとなっている。原木価格は値下がり傾向にある。製品販売については、住宅着工数の低迷から厳しい状況が続いているが、明るい材料として国産材のシェアが増えている。このまま外材が入りづらい状況が続けばシェアは増大するが着工数が減るので現状維持が精一杯か。
- 令和3年度のウッドショックの際に多く販売された立木販売について搬出期限が近付いているが、まだ伐採搬出されていない数量を把握し、規模によっては出材に猶予を持たせるという緩やかな調整も今後、検討していったらよいのではないかと。